航空ファン
THE KOKU-FAN
創刊20年記念
ワイドカラー
WIDE COLOUR
メッサーシュミット
Me163
☆特集☆
航空自衛隊のF 104J射撃大会・ルポ
高等練習・地上支援戦闘機"ジャガー"
19用スケールRC機D H ブスモス"
'72
DECEMBER
12
$ 2.30

射撃競技会のF-104J

5月2日　千歳基地をホーム・ベースに開催された47年度F-104J射撃競技会の参加機。写真の機体はたんちょう鶴を図案化した赤いマークの第2航空団第201飛行隊チームの射撃機である。同チームは[illegible]の成果を[illegible]して優勝に輝いた。

8665
665
8517

〔上〕第2航空団第203飛行隊チームのターゲット曳航機。203の0の部分に航空の名物熊を置いた部隊マーク。珍らしくオレンジレッドに塗った翼端増槽をつけて　主翼下にはダート　ターゲットの曳航装置を装備している。この装置から1,500フィートの曳航ワイヤをのばしてターゲットをひっぱる。203飛行隊 #2011 ついで2位の成績
〔下〕4位となった第5航空団第204飛行隊チームの「04」部隊マークは黄と黒のV字。後方に205飛行隊チーム機が見える。

（上・下）5位となった小松基地の第6航空団第205飛行隊チームのターゲット曳航機。赤い翼のようなスピードのシンボルが飛隊マーク。翼下に搭載されたダート・ターゲットはジュラルミン製で長さが約3m，重さ約86kg。空中しあがってから放出され，穴があくと内部につめられた石灰がとび出して，煙のように白い尾をひくようになっている

編隊で飛ぶF-4D　前方は第13戦術戦闘飛行隊（13th TFS）後方は第555戦術戦闘飛行隊（555th TFS）の所属機。両飛行隊はともにタイ国のウドーンを基地としている第432戦術偵察航空団（432nd TRW）の傘下にある戦闘飛行隊である。（Photo by D. Logan）

前ページと同じく第432戦術偵察航空団の傘下にある第14戦術偵察飛行隊（14th TRS）のRF-4C。432TRWは1966年にウドーンで再編成されて以来、北ベトナムとの主要な戦闘にはほとんど参加しており、傘下の戦闘飛行隊のミグ撃墜機総数はこれまで42機。ベトナム戦の空戦で最高の戦果をあげている。
(Photo by D. Logan)

NB 66B DDテストベイヤーの機体(F 111Dの白い機首をつけたNB 66 (E 38413)。F 111のレーダー・FM機能テストのため改造されたもの 1978年3月 デビスモンサン基地にて撮影。
(Photo by Ray Lock)

101 "変形機"で 機首が変っ　　　　　　るが 詳細は不明。今年の7月22日ワシントン州のマッコード空軍基地で撮影 (Photo by T. S. Waller)

〔上〕人工衛星追跡用に改造されたJKC 135A。システムズ・コマンドの所属機。フロリダ州マッコイ空軍基地で撮影。 (Photo by K. W. Burhenn)

〔下〕これもF 111のノーズをつけたRB 47H (0-34299)。ロングビーチ空港に着陸しているところ。 (Photo by Roy Lo...)

レベル1/32スケール
有名機シリーズ

NEW

De HAVILLAND MOSQUITO Mk.IV

FOCKE WULF Fw 190D

新発売

ハビランド　モスキート　Mk-IV

木製ボディと双発エンジンで第2次大戦中大活躍した英国空軍の万能爆撃機です

H-131　1/32スケール　全長 38.7㎝　全幅 51.4㎝

新発売

フォッケウルフ　Fw 190D

267392

1944年7月頃のアリューシャン列島のアメリカ陸軍航空基地。手前でP-38Eを整備中。解体されたP-40、L-4連絡機や機体のなかにはC-47輸送機も見える。原地を整地した仮設飛行場ではあるが、エンジンを運ぶトラクターなど、支援機材はととのっている

英国の航空博物館訪問 ①　*Fleet Air Arm Museum*

KUGISHO BOMBER GINGA MK.11
Revell
1 A PAINTING PATTERN
2 P1Y1 OF NO 262 ATTACK SQDN NO 762
AIR CORPS
3 P1Y1 OF YOKOSUKA AIR CORPS
4 P1Y1 OF NO 761 AIR CORPS
2
T
762-92
3
ヨ-231
4
761-25

陸上爆撃機"銀河" 戦後連合軍に引き渡された銀河11型 武装解除とともにプロペラをはずし，飛行不能な状態とされて処分を待っているところ 機体の塗装は上面濃緑色 下面明灰白色の後期標準塗装で 上下の境界は明瞭に塗り分けられている カウリングは全周つや消し黒である

陸上爆撃機空技廠"銀河"

太平洋戦末期，海軍陸上爆撃機の主力として大いに活躍した銀河。写真の機体は誉12型エンジンを積み電探を装備した11型 (P1Y1C)。胴体の側方に電探のアンテナが見える。

P-51B 5NAムスタング戦闘機　第358戦闘大隊（358th FG）第355戦闘中隊（355th FS）の所属機。機体の塗装は上側面オリーブドラブ，下面ニュートラルグレイ。スピナと機首は赤である。マルコムフードはのちに改造したもので，ワクは銅色のそのままである。

複座練習型のコルセアII初飛行

1,000ポンド爆弾16発を装備したHSバッカニア

主翼下の四つのパイロンに3発ずつ計12発、さらに胴体の爆弾倉内に4発と合計16発の1,000ポンド爆弾を装備して飛行中のホーカー・シドレー・バッカニアS2攻撃機。艦隊空攻撃の強力な戦力として開発されたバッカニア、いまではイギリス海軍から一部が空軍に移され、キャンベラ爆撃機に代って攻撃の任についているほか、南アフリカ空軍も陸上攻撃機として少数機を使用している。

ジャガーの艦上テスト

フランス海軍の空母クレマンソーを使って の春から行なわれているジャガーM 05号機の艦上テスト。機種M-05はフランス海軍用攻撃型のプロトタイプ。テストでは主翼ノ左右のパイロンに、それぞれ種類の異なった武器や増槽を吊して着艦やカタパルト発進を行なっている。

写真右上は着艦フックをおろして接近中。右翼下はAS37マーテル・ミサイルのモックアップ。左翼下には増槽を吊している。写真右下は主翼 は通常爆弾、胴体下は300ガロンの増槽を装備

マーチン B-57G キャンベラ

ベトナム戦の夜間攻撃のために改造されたB-57G　機首の前方と主翼下面に張り出した部分　は低光量テレビ，レーザー距離測定装置，前

スコッテイシュ・エビエーション
ブルドック

ビーグル・パップを軍用練習用に改造したブルドックは，1967年に発表されて以来，各国空軍から注目されたが，製造元のビーグル社は1昨年倒産。しかしそのあとをひきついだスコッテイシュ・エビエーションが，スウェーデン，マレーシア，ケニア各国空軍から発注されたシリーズ100 計画の生産をつづけている。

写真上と下は原型2号機（G-AXIO）で，スコッテイシュ社で完成した最初の機体。下の写真は大量発注（78機）したスウェーデン空軍のマークをつけて飛行しているところ。なお，スウェーデン，マレーシア（15機），ケニア（5機）空軍から発注された機体は，それぞれモデル101，102，103と呼ばれているが，これは装備品が違うだけ。量産1号機は昨年5月に飛んでおり，夏頃からスウェーデン空軍への引渡しを始めている。

F-104J "栄光"

F-104J EIKOs of JASDF 2nd Wing 203rd Squadron stationed at Chitose Air Base.

3機編隊で飛行訓練中のF-104J。千歳基地の第2航空団第203飛行隊の所属機。

航空総隊Ｆ-104Ｊ射撃競技会

エプロンで待機する第214飛行隊機

(上)脚輪室を滑せて離陸する第205飛行隊のF 104DJ。J型との相違点である後上方引込み式の前脚がよくわかる
(中)ダート ターゲット曳航装置 第208飛行隊の所属で この機体は異機種の外翼半分をオレンジ・レッドに塗装している。
(下)射撃を終えて帰還した第202飛行隊のF 104J ドラッグ シュートの直径23.4mある。

FARNBOROUGH-EUROPE 72

[上]ファーンボロ・エアショー会場を空から見る　前方はBAC111 トライランダー　デファンダーなどが並ぶ地上展示場。後方は屋内展示ホールである。[下] BAC167ストライクマスター　主翼下　マトラ　ロケット弾ランチャーを装着してデモ飛行中。COIN攻撃機として海外の中小国空軍から続々受注を受けている。

英国航空工業会（SBAC）の主催する'72年度ファーンボロ・エアショーが9月4日から10日までの1週間，おなじみの英国南部のファーンボロで開かれた。1年おきの開催でこんどが第28回目。伝統を誇るエアショーではあるが，英国航空機業界の合理化を反映して，最近はやや斜陽のきざしがあらわれつつあった感じ。しかし今回からは英国機のみでなく，英国製のエンジンや装備品を装備した外国機の参加も認められることになって，ショーの名称も"ファーンボロ・ヨーロッパ'72"。国際航空ショーの性格が打ち出されて，展示機も近年になくバラエティにとんだものとなり，世界各国から貿易関係者や観客等がつめかけ盛況であった。

（上）アエルマッキMB326G軽攻撃機。イギリス製のバイパー・エンジンを装備した本機は練習機をもとに開発した対地攻撃機，ファーンボロには初参加。（右）おなじみのハリアー攻撃機のデモ飛行。（下）サーブ・ビゲンもダイナミックな飛行を披露。スウェーデンからはこの他サーブ105B，MFI 17なども飛行ショーに出場したが，105Bは胴体着陸の事故を起してパイロットが負傷している。 (Photos by C W Moggridge)

〔上〕離陸するハンター。これは民間記号を付けた1機だが、イギリス空軍では、ジャガーの乗員養成のために、本機による[illegible]飛行隊の編成を計画しており"老兵"ハンターのカムバックは[illegible]

〔上〕インド空軍のナット練習機も参加。これはインドで国産した機体である。〔下〕アイランダーを3発にしたトライランダー。垂直尾翼の上部にエンジン1発を装備した変った姿でデモ飛行。

フォート ニュース

〔上〕ベルギー空軍に引渡されたロッキードC 130H輸送機 同空軍では 本機を12機発注しており そのうちの2機の就役式がこのほどメルスブイノク空軍基地で行なわれた 残りの10機は 今年末から来春にかけて引渡されることになっている 〔下〕 このほどモスクワで開かれ [illegible] 農業用 [illegible] KA 26である（TASS）

ロケット戦闘機　Me163 コメット

ROCKET FIGHTER ME 163 KOMET

〔左ページ下〕Me163B V2。Me163BはA型を基礎にしていたが、各部が大幅に改修された。RII-211（製品型の名称はHWK509A）ロケットを積んで最大速度590mph（949km/hr）、航続距離は150マイル（241km）という計画であった。写真のV2（VD+EL）はB型の原型2号機で、1号機のV1につづいて1942年夏に完成したが、RII-211の開発が遅れ、1年ほど動力なしで滑空テストや機関砲の射撃テストなどに使われている。1943年7月に最初のRII-211が完成すると、早速本機に積まれて、飛行テストが行なわれた。

〔上〕Me163B V8。B型は6機の原型につづいて70機の量産前期機が発注されたが、そのうちの30機は試験機のV記号がつけられた。写真のV8は量産前期型の2号機である。上左のA V1とくらべると、機体の形状は大はばに変っていることがわかる。

〔下〕連合軍側に捕獲されたMe163B 1aの1機。

ME. 163.B
OLYMPIA

Me163B-1aの最初の実戦部隊　オレイニク大尉を指揮官とする第400戦闘航空団第1飛行隊（I./JG400）がビトムントハーフェンで編成されたのは1944年5月。7月になって機材が配備され、まもなくライプチヒに近いブランデスに移って7月28日B-17とP-51の爆撃編隊の侵攻部隊を迎え撃って初出撃。第2飛行隊（Ⅱ/JG400）もつづいて編成されて8月には第1飛行隊の約30機がブランデスを基地に出撃任務についている。
しかし目標とは相対速度の違い、30mm機関砲での命中弾はパイロットには勝手が違って戦果はあまりかんばしくなかった。Me163B-1aは1945年2月まで生産がつづけられ、44年中に237機その後442機が部隊に引渡されている。
〔右ー下〕前ページと同じくアメリカ軍の手に入ったMe163B-1a。右の機体は外国の捕獲機を示すFE記号を大きく書き、燃料注入口にはT（水化ヒドラジン／メタノール混合液）とC（過酸化水素）の記号が見える。

〔下〕複座練習型のMe 163S。航続時間の短かいMe163での飛行訓練は限度があり、緊急を要する操員養成のためにつくられたのがこのS型。
B型の胴体を改造して、操縦席後方のT液燃料タンクと噴進をはずしてタンデム複座としたもので、後方は教官用。両席とも完全な複操縦装置となっていた。動力なしの滑空でMe 163の操縦感覚を体得させるのが目的であったので、機首の両側や主翼のC液燃料タンクはバラスト用の水をつめて飛行した。S型は終戦までに少数機が造られている。
なお下の写真は、ソビエト空軍に渡った1機の姿である。

未発表海軍機写真集　南の島で捕われの零戦

艦上型のシーファイア

シーファイアはスピットの艦上戦闘機型。英海軍では、艦上戦闘機の開発はあまり重視していなかったが、開戦とともにその必要性にせまられ、急遽スピットを改造することになったものである。

〔上、下と右上〕シーファイアF MK II。MK IIはスピットファイアMK VBに着艦フックを付けて改造したもの。1942年の後半までにウエストランドのエアーサービス・トレーニング社の手によって約48機が改造されたが、その後もひきつづき48機のMK VBがシーファイアとなっている。艦上のスペースを考えて、改造されたのはすべてマーリン45と46エンジン装備のMK VBのみであった。シーファイアIIは1942年7月、第807スコードロンに最初に装備され、空母フユリアス配備となって地中海方面に送られて、マルタ島防衛戦、北アフリカ上陸作戦などで活躍している。

写真で尾輪のすぐ前に見える出っぱりが引込んだ状態の着艦フック。この着艦フックとカタパルト発進用の金具をつけて、各部を補強したのみで、そのほかはスピットのVBとほとんど変りはなかった。

〔右下〕シーファイアF XV（15）。グリフォン・エンジンを積んだシーファイアで、スピットファイアMK XIIの海軍型でもある。1944年から生産が始められ、390機が造られている。1945年5月に第802スコードロンに配備されては来、戦後も海軍航空部隊でひきつづき使われている。